

2024 年卒
Vol.10

10月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 10 月発行)

2024 年卒の就職戦線は、正式内定解禁日である 10 月 1 日を迎えた。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は昨年に引き続き 9 割を超え、極めて高い水準を示した (91.0%)。

また、今回は内定後のフォローについての意見や、中小企業への応募状況、就職活動費用など多岐にわたる調査結果を紹介したい。
(2024 年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は 91.0%。前回調査 (7 月調査、86.0%) から 3 カ月間の伸びは 5.0 ポイント
- 前年同期調査 (91.1%) に引き続き、2 年連続で 9 割を超える高水準に
- 就職先決定者は全体の 86.3%。内定保留者 (2.4%) を合わせた活動終了者は 88.7%

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」54.1%。理系は約半数が「大学院に進学」

3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の面接試験を受けた学生は全体の 55.5%。平均社数は 2.8 社
- 中小企業を受けた理由は「やりたい仕事に就ける」「会社の雰囲気がよい」38.3%

4. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 「インターンシップ等参加企業」が 4 割強 (44.4%)。前年 (42.5%) よりやや増加

5. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローの頻度は「1 カ月に 1 回程度」が最多。文理で差は見られず
- 内定期間中の研修や課題には過半数が賛成の意向。「e ラーニング」が人気

6. 就職活動の費用

- 平均 84,241 円で、前年より 1 万 5 千円近く増加。交通費の増加が顕著
- コロナ禍前 (2020 年卒 : 136,867 円) の 6 割程度の水準

7. 就職活動で大変だったこと

- 1 位「エントリーシート」、2 位「自己分析」、3 位「就職情報の収集」。いずれも過半数が選択

※「インターンシップ (就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,174 人 (文系男子 366 人、文系女子 355 人、理系男子 305 人、理系女子 148 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023 年 10 月 3 日~11 日
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は91.0%。前回調査(7月1日時点)の86.0%から5.0ポイント伸び9割に達した。前年実績(91.1%)とほぼ同率となり、2年連続で9割を超えた。直近で最も高かった2018年卒(92.7%)には届いていないものの、コロナ禍前の極めて高い水準を回復しており、企業の採用意欲の高さを改めて印象づける数字となった。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了した人の割合は94.9%を占める。7月調査(80.8%)より14ポイントあまり増え、正式内定日までに内定取得学生の大多数が活動を終えた。

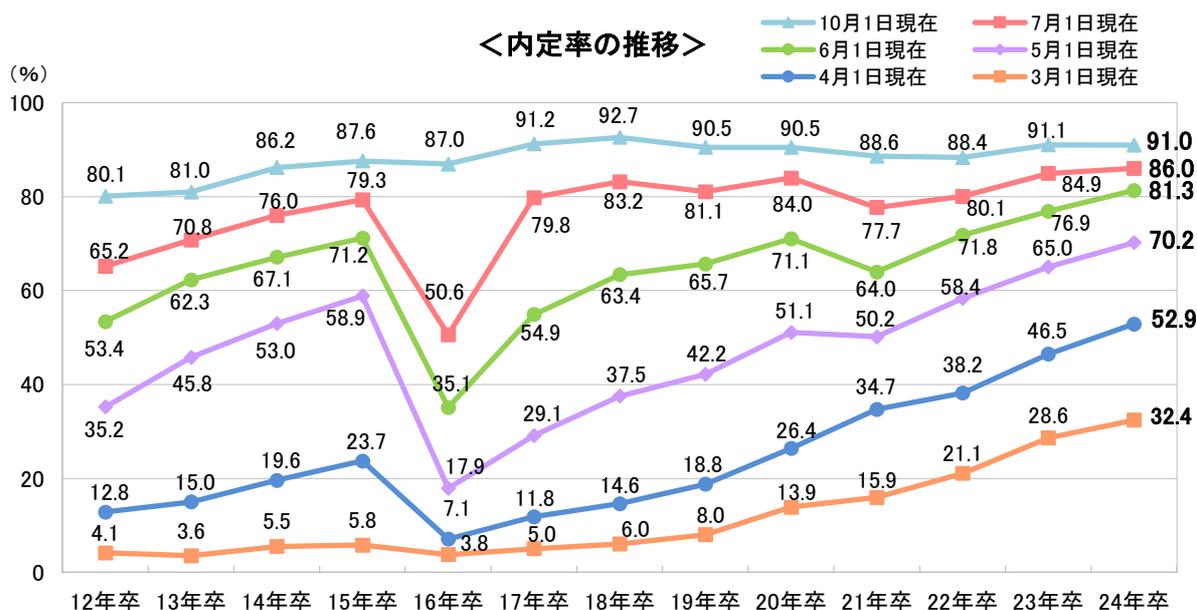
内定取得学生の平均内定数は2.5社。前年同様に、内定者の多くが複数の企業から内定を得たことがわかる。

<10月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		91.0 (91.1)	90.4 (90.2)	94.6 (92.5)	87.5 (89.8)	90.5 (92.4)
内定なし		9.0 (8.9)	9.6 (9.8)	5.4 (7.5)	12.5 (10.2)	9.5 (7.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	94.9 (95.6)	94.3 (94.1)	93.8 (96.3)	97.0 (96.1)	94.8 (96.2)
	活動は終了したが複数内定保持	1.4 (0.7)	1.8 (1.2)	1.5 (0.6)	0.7 (0.4)	1.5 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.2 (1.6)	0.9 (1.2)	1.2 (0.9)	0.4 (2.5)	3.7 (2.3)
	就職活動継続	2.5 (2.2)	3.0 (3.4)	3.6 (2.2)	1.9 (1.1)	0.0 (1.5)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.5 (2.5)	2.5 (2.6)	2.7 (2.6)	2.4 (2.4)	2.4 (2.5)

※()内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24年卒は6月

回答者全体を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 86.3%。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (2.4%) を合わせると、活動終了者は 88.7% となる。前年同期 (89.1%) やコロナ禍前の 2020 年卒者とほぼ同様の割合を示している。

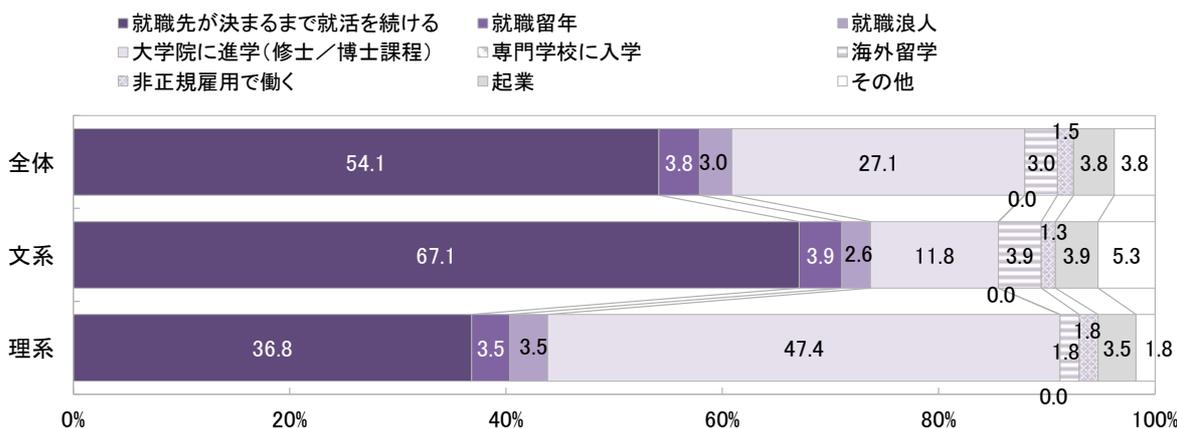
<活動状況の分布>



2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が半数強で最も多いが (54.1%)、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学」が全体の2割を超え (27.1%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数いるようだ。とりわけ理系学生において顕著で、半数近くが選択している (47.4%)。一方、文系学生は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が圧倒的に多く、6割を超える (67.1%)。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■就職先が決まっていない学生の声

- 今受けている会社の選考が終わるまでは就職活動を続けたい。選考が通らなかった場合は、内定をいただいている会社に就職しようと考えている。 <就活継続：文系女子>
- これ以上勉強したい思いもなく、とりあえず社会人を体験してみないと始まらない。 <就活継続：文系男子>
- 元々迷っていたが、就活状況を踏まえて、もう少し大学で学びたいと考えた。 <大学院進学：理系男子>
- 働きたい業界を見つけられなかった。 <大学院進学：理系女子>
- どうしても行きたい企業があるため再チャレンジしたい。 <就職留年：理系男子>

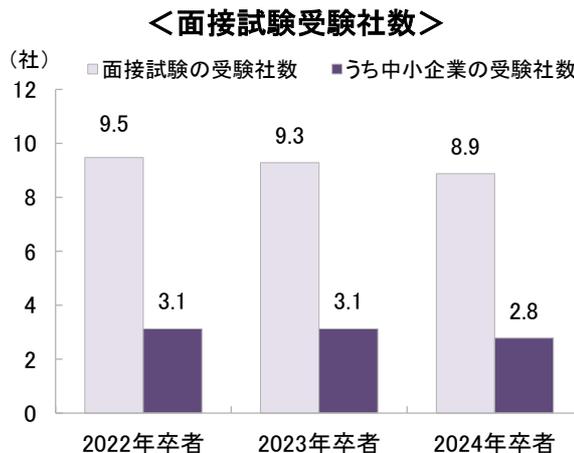
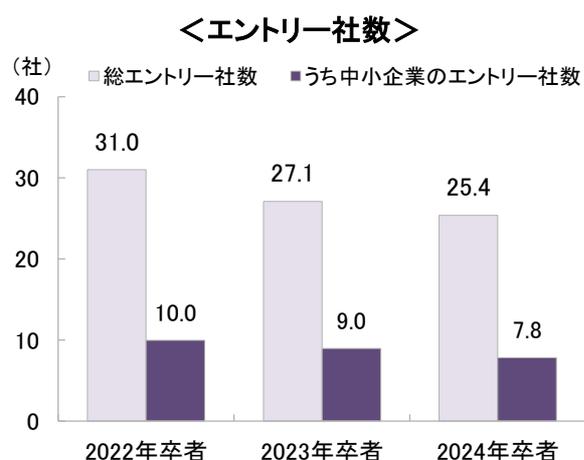
3. 中小企業への選考応募状況

全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募経験について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」は約 6 割 (60.1%) で、この 2 年で微減傾向。「中小企業の面接試験を受けた」は 55.5% で、こちらも前年よりわずかに減少した。

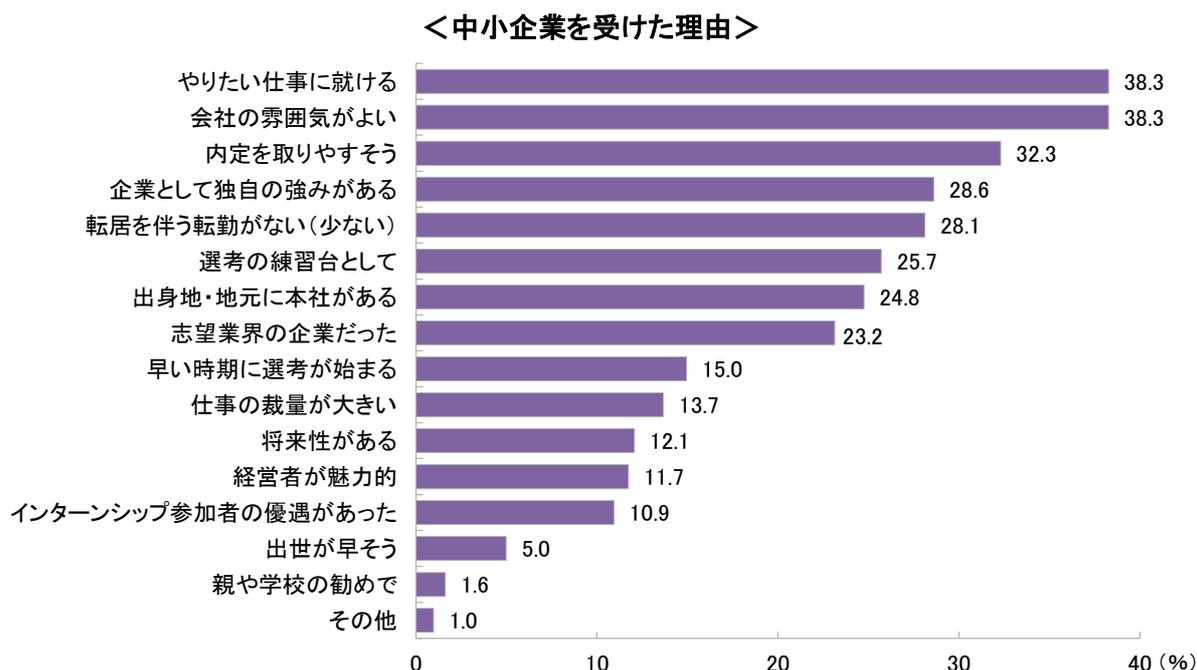
総エントリー社数の平均 25.4 社のうち、中小企業へのエントリー社数は 7.8 社。総エントリー数の減少に伴い、前年より 1.2 社減少した。面接試験受験社数の平均も、2.8 社と微減。

	(%)		
	2022年卒者	2023年卒者	2024年卒者
中小企業にエントリーした	63.2	61.6	60.1

	(%)		
	2022年卒者	2023年卒者	2024年卒者
中小企業の面接試験を受けた	57.4	57.7	55.5



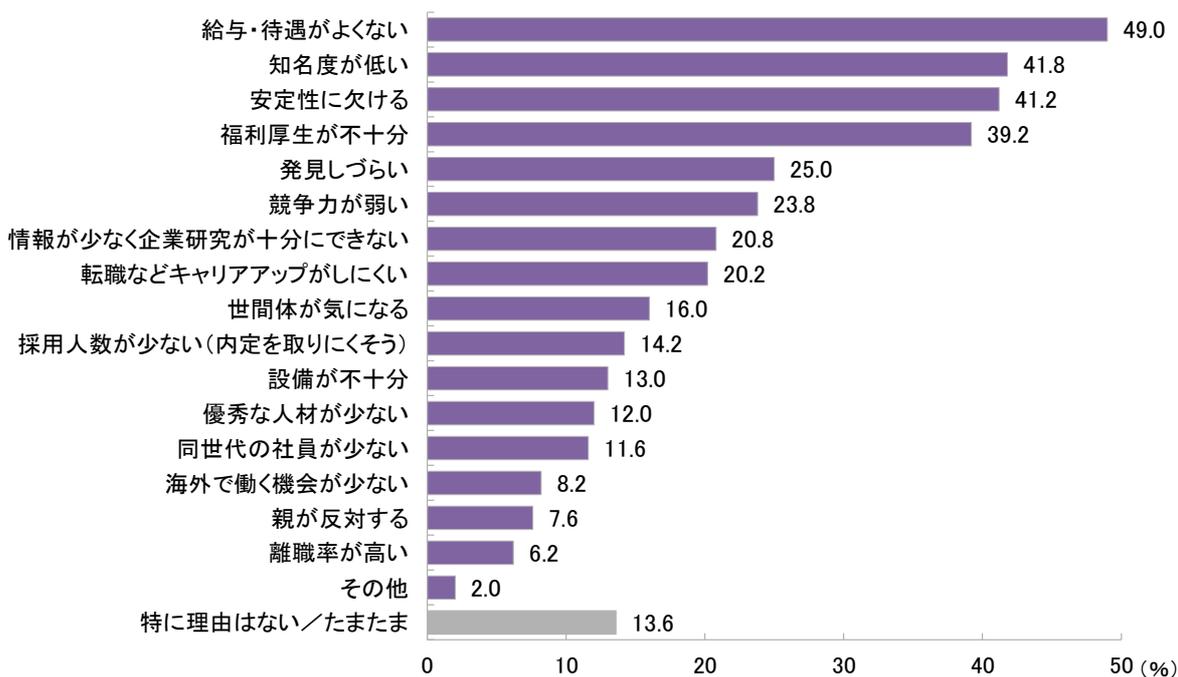
中小企業を受けた理由を見ると、「内定を取りやすそう」「選考の練習台として」など、滑り止めや面接の練習として受ける学生も一定数みられる。ただ、最も多いのは「やりたい仕事に就ける」と「会社の雰囲気がよい」(38.3%)。企業の規模よりも仕事内容や社風を優先する学生が少なくないことがわかる。実際に、説明会や選考での対応を通じて、社風のよさも感じたという声も寄せられた。



中小企業を受けていない学生 (モニター全体の44.5%) にも、その理由を尋ねた。最も多いのは「給与・待遇がよくない」で5割近くが選んだ (49.0%)。「安定性に欠ける」(41.2%)、「福利厚生が不十分」(39.2%) などが上位に挙がり、条件面での懸念が中心である。また、「知名度が低い」(41.8%)、「発見しづらい」(25.0%) なども一定数が選んでおり、中小企業の企業研究をすることなく敬遠している学生も少なくないと見られる。

中小企業を受けた学生のコメントを見ても、選考時の対応は大手より高く評価するものの、「知るきっかけがない」「情報が少ない」という声も多い。自社の強みや魅力をしっかり発信することが求められる。

＜中小企業を受けていない理由＞



■ 中小企業を受けていない理由

- 意図的に避けた訳ではないが、大きな企業の方が給与や福利厚生が充実していることが多かった。 <理系女子>
- 同期が少なくなるので、互いに高め合ったり、助け合あったりするモチベーションの部分が保ちにくいと感じてしまいます。 <文系男子>
- もっと見ておけばよかったと思っているが、優良中小企業を見定める基準があまりわからない。 <文系女子>
- 探してはみたかったが、やはりいい企業を探すのがなかなか難しい。 <理系男子>
- 転職を考えた時に大企業から中小へは行けても、中小から大企業は難しいと思った。 <文系男子>

■ 中小企業を受けた印象

- 面接の際に一人一人をしっかりと見てくれている感じがした。採用する人数が少ないため企業側もきちんと判断しようとしているのだと思った。 <文系女子>
- 工場見学などで親身になって説明してくれるので、とても勉強になった。 <理系男子>
- アットホームな職場かつ、地元で働けるということに憧れを持った。 <文系男子>
- 若手から裁量の大きい仕事ができそうだった。 <理系女子>
- 採用情報・企業情報等を得る機会や方法が少ないと感じた。大型合同説明会などでは接点を持つことがなかったので、個人的に調べる、あるいはコンタクトを取ることが必要だった。 <文系男子>
- オンラインを活用してない中小企業が多かったように思う。ホームページや就職情報サイトに説明が少ない場合、オンラインでの説明会の有無が選考を受ける基準になる。 <文系女子>

4. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 86.3%）の、就職決定企業について確認したい。

まず、就職決定企業の業界を文理別に見てみる。文系の 1 位は前年同様「情報処理・ソフトウェア」。2 位は「銀行」で、昨年 2 位の「官公庁・団体」と順番が入れ替わった。銀行の他に「建設・住宅・不動産」や「運輸・倉庫」なども順位を上げた。理系も 1 位は「情報処理・ソフトウェア」で、文理にかかわらず採用に積極的な企業が多いことがわかる。2 位「電子・電機」から 6 位「機械・プラントエンジニアリング」まで前年と順位が変わらず、上位に変動は見られない。なお、理系は上位 3 業界で 3 割強を占める（計 34.0%）。

＜就職決定業界＞

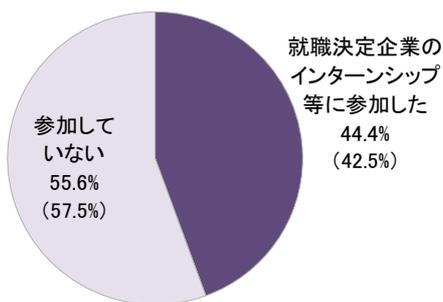
文 系				理 系							
2023年卒者		%	2024年卒者		%	2023年卒者		%	2024年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.6	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5
2位	官公庁・団体	6.5	2位	銀行	7.0	2位	電子・電機	11.3	2位	電子・電機	10.9
3位	銀行	6.4	3位	官公庁・団体	6.7	3位	建設・住宅・不動産	9.0	3位	建設・住宅・不動産	9.6
4位	調査・コンサルタント	5.5	4位	建設・住宅・不動産	6.2	4位	自動車・輸送用機器	6.8	4位	自動車・輸送用機器	7.5
5位	商社（専門）	5.4	5位	運輸・倉庫	5.7	5位	素材・化学	6.5	5位	素材・化学	7.0
6位	建設・住宅・不動産	4.9	6位	調査・コンサルタント	4.5	6位	機械・プラントエンジニアリング	5.5	6位	機械・プラントエンジニアリング	5.4
7位	運輸・倉庫	4.4	7位	商社（専門）	4.5	7位	エネルギー	4.8	7位	水産・食品	5.2
8位	その他サービス	3.9	8位	その他サービス	4.1	8位	官公庁・団体	4.3	8位	調査・コンサルタント	4.4
	マスコミ	3.9		情報・インターネットサービス	4.1		調査・コンサルタント	4.3		医薬品・医療関連・化粧品	4.4
	人材サービス	3.9		10位	マスコミ		4.0	情報・インターネットサービス		4.3	10位

※40業界のうち上位10業界を掲載

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

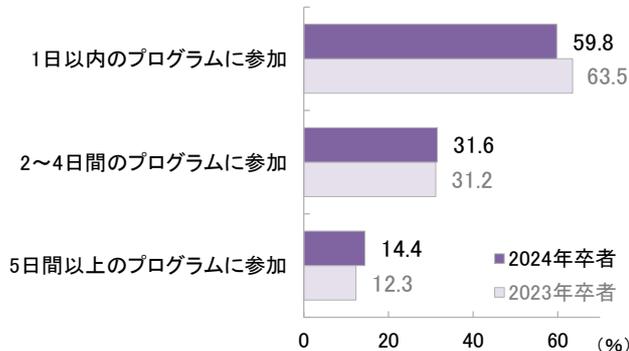
次に、インターンシップ等のプログラム参加状況を見てみる。就職決定企業がインターンシップ等参加企業だったという人は 44.4%で、前年に引き続き 4 割以上に上る。プログラムへの参加を通して就職先として意識し、実際に内定を得て卒業後の進路として決定するケースが少なくないことが読み取れる。なお、「5 日間以上のプログラムに参加」したという人は、1 割あまりだった（14.4%）。

＜インターンシップ等への参加＞



※()内は前年同月調査の数値

＜日数別参加状況＞

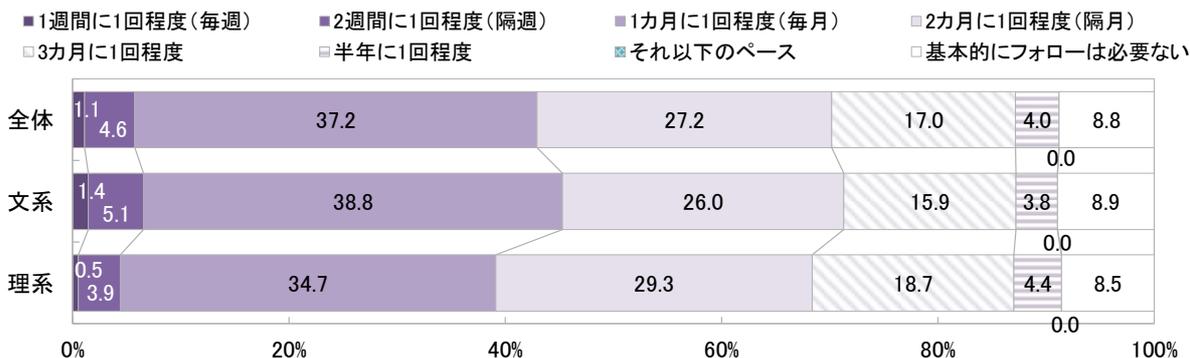


※就職決定企業のインターンシップ等参加者が回答

5. 内定後のフォローと内定者研修

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、入社までどのくらいのペースで企業にフォローしてもらいたいと思っているのかも尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で37.2%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」(27.2%)が続く。文理による極端な差は見られず、先に見たように卒業研究など専門分野の学業で多忙な理系学生も、一定のフォローを期待している様子が見える。

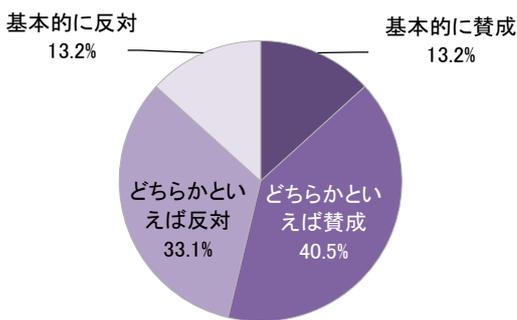
＜企業に希望する内定後フォローのペース＞



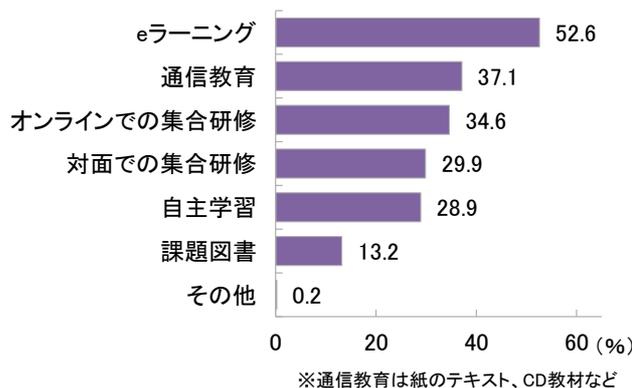
内定期間中に研修や課題が出ることについては、「基本的に賛成」(13.2%)と「どちらかといえば賛成」(40.5%)を合わせて過半数が賛成の意向を示した(計53.7%)。なお、研修や課題の望ましい形式を尋ねたところ、「eラーニング」が最も多かった(52.6%)。以下「通信教育」「オンラインでの集合研修」が続く、自宅等で自分の都合に合わせて、比較的手軽に受けられる課題や研修を希望する学生が多いようだ。

いずれにしても入社前の研修は希望者のみに限り、学業に負担のない量・方法などの対応が求められる。

＜内定中に研修や課題が出ることへの考え＞



＜内定者研修や課題で望ましい形式＞

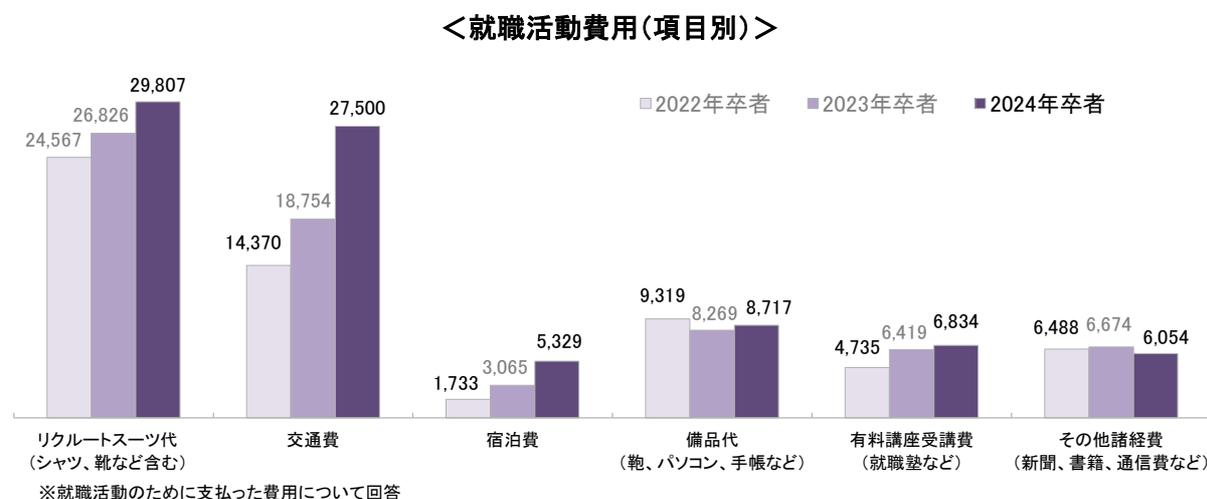


■就職決定企業について、入社するまでもっと知りたい情報

- 残業の量や休暇制度について。就職活動中は聞きにくいことであるため。 <文系女子>
- 具体的な配属先が知りたい。部門は決定しているが、その先の部署については決まっていないため、具体的な仕事内容を事前に知ることができない。 <理系男子>
- 転勤がある仕事なので、家庭を持った時どうしている人が多いかなど。 <文系男子>
- 引越しの時期、費用、手当、4月までの日程、社割等良いと感じる福利厚生について。 <理系女子>
- 女性の働き方(特に産休育休をとった場合のキャリアアップ)について知りたいと思っている。 <文系女子>
- 入社までに時間があるので、その時間を利用して勉強しておくとい資格はあるか。 <文系男子>

6. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると84,241円となり、前年調査(70,007円)より1万5千円近く増加した(14,234円増)。就活費用は、コロナ禍を機に大幅に減少した後、昨年増加に転じたが、今年はさらに増加した。ただ、コロナ禍前(2020年卒)の6割程度にとどまり、就活費用が最も高かった2011年卒に比べれば半額程度に収まっている。



＜就職活動費用(大学地域別)＞

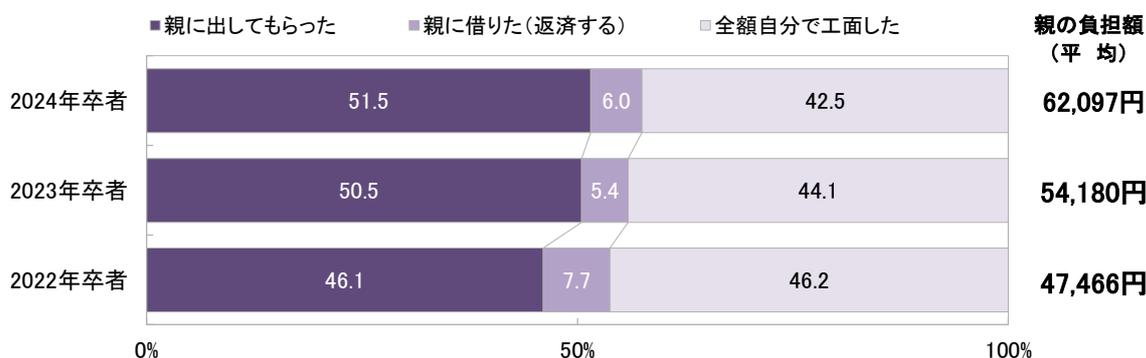
	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
合計	109,154	62,888	70,815	88,170	99,713	111,133	91,085
リクルートスーツ代	26,464	24,763	29,438	27,865	35,828	26,063	27,158
交通費	31,133	26,036	18,137	31,276	36,704	45,185	33,520
宿泊費	8,929	4,536	1,584	5,995	8,021	14,337	9,906
備品代	14,476	4,661	8,786	6,844	10,638	7,562	7,571
有料講座受講費	22,619	0	6,269	9,756	3,101	11,685	7,000
その他諸経費	5,533	2,893	6,601	6,434	5,420	6,301	5,930

項目別にみると (グラフは8ページに掲載)、交通費の増加が顕著 (8,746円増)。今期も説明会や初期の選考はオンラインが中心だったが、最終面接は対面で行う企業が大半だったことなどから、その分費用も上昇したと見られる。

地域別では、合計額が高いのは「中国・四国」(111,133円)、「北海道」(109,154円)で、いずれも10万円を超える。

なお、今回、総額の増加に伴い、就活費用をアルバイトなどで「全額自分で工面した」という学生の割合は2年連続減少。代わりに、「親に出してもらった」が増加し、過半数に上った(51.5%)。親の負担額は平均62,097円で、前年より8千円近く増加した。

<就職活動費用の出どころ>



■就職活動の費用について

- 基本オンラインのみで終わらせたので、通信費と電気代くらいしかかけていない。
 <関東・理系男子/総額 31,000 円>
- インターンシップでは、スーツではなくオフィスカジュアルを求められることもあり、その分出費がかさんだ。
 <関東・文系女子/総額 52,000 円>
- 最初は入学式のスーツや靴を使っていましたが、面接の時期までにボロボロになってしまったので思った以上に出費がかさみました。
 <関東・理系女子/総額 148,500 円>
- 就職活動に際して改めて購入したものはない。宿泊費や交通費は基本的に企業がすべて負担してくれた。
 <東北・理系男子/総額 0 円>
- 交通費を支給してくれる企業の方が、それだけ余裕があり、安定しているのではないかと感じたため、志望度にも大きく関わった。
 <中部・文系女子/総額 179,000 円>
- とても田舎に住んでいて交通費がかかるため、都会でしかやらないセミナーや選考はかなり数を絞ったが、お金があったらもっと都会の企業を見に行きたかった。
 <中国四国・理系女子/総額 58,000 円>
- スーツなどは親から出して貰えたが、交通費をその都度もらうのは申し訳なくてして自分で負担した。
 <関東・文系男子/総額 175,000 円>
- 先輩から自己分析の本などを譲ってもらったので、そこがとても助かりました。
 <関西・文系女子/総額 51,500 円>
- 留守番電話サービスを契約するなど、就活前には気づかないところで意外とお金がかかりました。
 <関東・理系女子/総額 39,000 円>
- オンライン面接などが増えていたため、スペックのいいパソコンを購入した。
 <関東・文系男子/総額 400,000 円>
- 安い金額ではないが、将来のために必要だったので無駄でないと思う。 <関東・理系男子/総額 62,724 円>

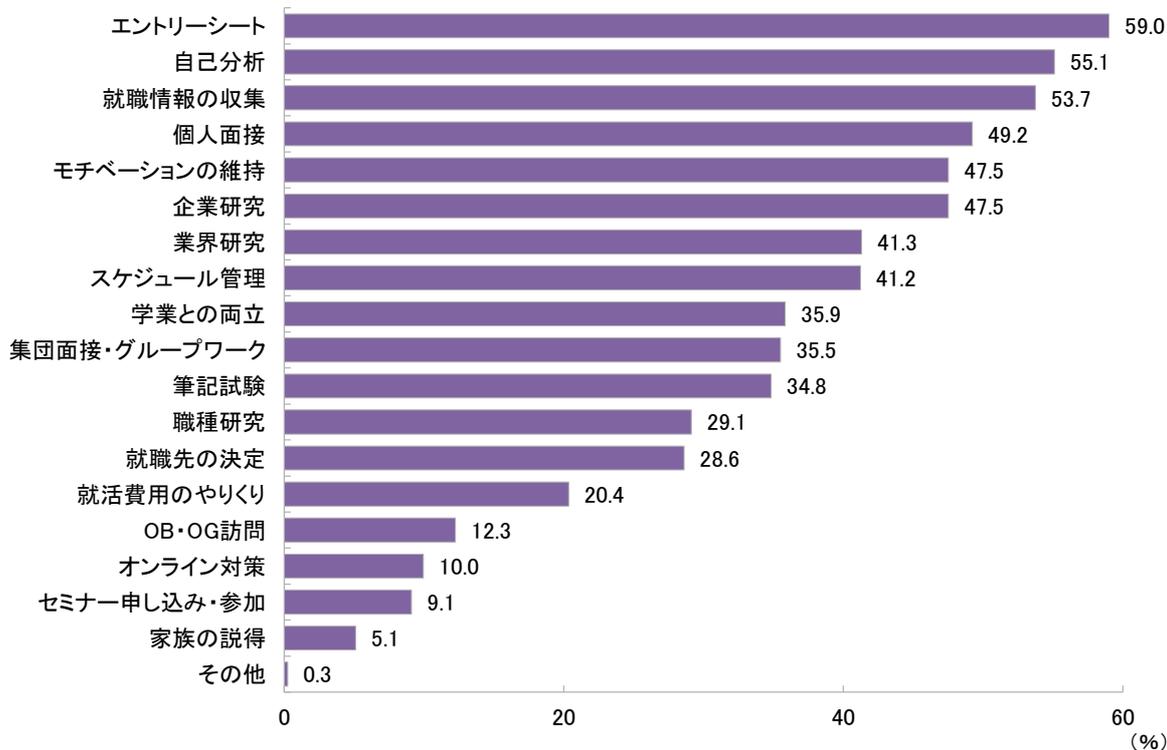
7. 就職活動で大変だったこと

就職活動で大変だったこととして、自身にあてはまるものを選択肢からすべて選んでもらった。

最も多いのは「エントリーシート」で約6割が選んだ (59.0%)。エントリーシートは選考の入口であるため、かなり時間をかけて取り組んだという声が目立った。関連する「自己分析」も5割台後半と高い (55.1%)。

「就職情報の収集」(53.7%) は半数を超え、続く「個人面接」「モチベーションの維持」「企業研究」は、それぞれ5割近くが選んだ。売り手市場と呼ばれる今期の就職戦線だが、様々な苦労を経験していることがうかがえる。

＜就職活動で大変だったこと＞



■就職活動で大変だったこと

- 自分自身の強みなどがわからず、エントリーシートを書く際に苦労しました。友人や家族などから自分のことを聞くことで克服しました。 <文系男子>
- エントリーシートを提出する時期が被るため、同じ時期に何枚もESを書くことに苦労した。 <理系男子>
- たくさんの企業があるなかで、興味のある企業を探すのがとても大変だった。 <文系女子>
- 情報収集が間に合わずにエントリーできない企業がいくつもあった。 <文系男子>
- なかなか面接を通過しなかったので落ち込んだりした。自己分析をしっかり行い、対策をした。 <理系女子>
- 大学院の研究との両立が大変だった。メリハリをつけて、就活に集中する時期と研究に集中する時期を分けた。 <理系男子>
- 内定を得たうちの2社のどちらに進むか非常に悩んだ。最終的には、転勤が少なくライフプランが設計しやすい企業に決定した。 <文系女子>
- OB・OGを見つけるのが大変であった。サークルや知り合いにお願いして紹介してもらった。 <理系男子>
- 一人暮らしで生活費と就活費用を賄うのがとにかくきつい。アルバイトと就活の両立も難しい。 <文系男子>
- 早期化かつ長期化しているため、モチベーションを維持し続けることが一番大変であった。 <文系男子>